

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 平成30年11月1日 No.3



次年度に向けての就学支援が始まっています。幼稚園や保育所では就学に向けて、小中学校では進級・進学に向けて、具体的にどのような教育環境で学習することが、児童生徒の能力を可能な限り伸ばすことができるかを検討しています。

日々の行動観察や学習の様子はとても大切な情報です。これらはインフォーマルアセスメントと言い、児童生徒の具体的な状態を知ることができます。しかし記録や解釈の際に主観が入りやすいので、信頼性・妥当性は保証されません。

そこでフォーマルアセスメントと言われる評価が用いられます。評価尺度が標準化されているので、信頼性・妥当性は確保されています。マニュアルに従って検査を実施するので、検査者によって結果に差が出るということもありません。また結果は数値化されます。

今回は、よく使用されるWISC-IV(ウィスク フォース)について学びたいと思います。



特集 WISC-IVってどんなもの？

1 WISC-IVとは

- ・ 5歳0カ月～16歳11ヶ月の子どもを対象にした、世界でも広く利用されている代表的な児童用知能検査である。
- ・ WISC-III、WAIS-III、DN-CAS、K-ABC を用いた妥当性検証により、これら既存検査との高い相関が確認されている。
- ・ 全15の下位検査(基本検査:10、補助検査:5)で構成されており、10の基本検査を実施することで、5つの合成得点(全検査 IQ、4つの指標得点)が算出される。それらの合成得点から、子どもの知的発達の様相をより多面的に把握できる。

積木模様	見本を見て、2次元の幾何学模様を、赤と白の積み木を使って制限時間内に作る。
類似	二つの単語がどのように類似しているかを説明する。
数唱	検査者が言った通りに数字を復唱する。順唱と逆唱がある。
絵の概念	共通の特徴のグループを作るため、2～3列に提示された絵の中から一つずつを選択。
符号	数字と記号がペアになった見本を見て、数字とペアの記号を制限時間内に記入する。
単語	単語の定義を説明する。
語音整列	一連の数字と文字を聞き、数字は昇順に、文字は50音順に復唱する。
行列推理	絵の行列の欠けている部分を完成させるものを、5つの選択肢の絵から選ぶ。
理解	一般原則や社会的状況の理解に基づいた質問に答える。
記号探し	記号グループの中に、刺激記号があるかないかを答える。
絵の完成	絵を見て、欠けている重要な部分を制限時間内に答える。
絵の抹消	不規則・規則的に配置した絵を見て、目標の絵に、制限時間内に印をつける。
知識	広範囲の一般知識の話題を扱う質問に答える。
算数	口頭で出された算数問題に、制限時間内に暗算で答える。
語の推理	スリーヒントクイズに答える。

2 何がわかるのか？何がわからないのか？

わかること

- ・ 知能指数
- ・ 発達の様子
- ・ 個人内差(得意なことと苦手なこと)
- ・ 学習面や行動面のつまずきの背景
- ・ 療育手帳が受けられそうかどうか
* すべてではありません。

わからないこと

- ・ 障害の有無
- ・ 発達障害かどうか
- ・ 特別支援学級に適しているかどうか
- ・ 性格

「過去に〇〇療育センターで WISC をやってもらったことがある」と数値だけを見せていただくことがあります。下位検査の様子や、検査の時の行動観察の手がかりがないと、ほとんど何も解釈することはできません。(すべきではないと思います。)

同様に、WISC の数値だけで、その人を理解したり判断することはできません。

3 結果をどう活用するのか？

大切なのは、どうして検査を受けたのか、ということです。検査結果を受けて、検査の目的にあった支援が始まります。検査を受けに来た児童生徒が、理由もよくわからずに連れてこられるのは残念なことです。検査の目的を説明すると、どの児童生徒も安心した様子を見せます。

深谷はばたき特別支援学校のコーディネーターが行っている支援は、学習の場や生活の場で、どうすれば幼児児童生徒が理解できるようになるか、どうすれば行動のきっかけになるかという内容を担任の先生や保育士にお伝えしています。学校の教員が行う検査なので、学校の教員に役立ててもらえるような支援を考えたいと思っています。本校では「日本版 WISC-IV テクニカルレポート」に従って、報告書を作成しています。(本校のコーディネーターは、特別支援教育士や臨床発達心理士の資格を持つ教員が WISC を行っています。定期的に研修を受けたり、スーパービジョンを受けています。)

報告書では、あくまでも WISC の検査の視点で知りえたことが中心で、検査中の行動観察や、場合によっては授業の様子や掲示物などを観察して、それらを情報としています。ですから結果を保護者や担任の先生に報告する際には、家庭や学校の様子をお伺いしながら、検査結果を裏付けにして、支援方法を話し合いながら考えていきます。

事例(架空のもの)

合成得点プロフィールは言語理解とワーキングメモリーが低く、知覚推理と処理速度が高い特徴を示しました。

「さっき言ったよね?」「何回言えばわかるの?」という声かけを受けるのは、言葉を聞き取る力が弱かったり、記憶することが苦手だからと考えられます。そこで、一斉指示を出す場合は、教室を静かな状態にしてから「これから〇〇について説明します」と注意喚起をしてから説明します。聞き取りやすくするためには、平易な言葉を使うようにします。また、言葉だけではなく、視覚情報を添える支援をお願いします。具体的には、黒板にこれからすべき行動を、箇条書きで書いて伝えるようにしてみます。……

参考文献

日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント - 代表的な指標パターンの解釈と事例紹介 日本文化科学社
エッセンシャルズ WISC-IV による心理アセスメント 日本文化科学社